

## 中嶋嶺雄会長によるスズキ・メソッド教育講演会

# グローバル化と日本の教育

2009年12月13日にウィルあいち・ウィルホール(愛知県)でスズキ・メソッド教育講演会(主催:東海地区三科)が開かれ、ヴァイオリン・ピアノ・チェロ・フルート科の生徒の演奏もありました。ここでは、国際社会学者の中嶋会長の講演を採録します。

### グローバル化と国際化

グローバルというのは、まさに地球Ⅱグローブから来ている言葉です。世界が一体化しているという意味で、最近はおちこちで聞かれるようになりました。それでは一体、国際化とはどう違うのか、その違いからグローバル化について考えてみたいと思います。

国際というのは、国と国の関係です。しかしinternational(国際的) internationalization(国際化)というような言葉も古いもの

ではありません。戦後できた言葉と言っていると思います。きっかけは1945年、終戦の年、2月の「ヤルタ会談」で、スターリンとチャーチルとルーズベルトが会談しました。表向きは戦後の東欧諸国をどうするかということでしたが、その陰に隠されていた実際の目的は、日本をどうするかだったのです。

そのため、「極東に関するヤルタ秘密協定」が同時に結ばれました。そこにはドイツが敗戦に至った後に、ソ連が対日参戦する代償とし

て、ソ連に北方領土の権益を与えること、もう一つは商業港の大連を国際化することが書いてありました。これがinternationalize(を国際化する)という言葉が英語として使われた最初だと思います。しかもそれは外庄として、国際化するというように、他動詞として使われています。

それに対して「日本は、もともと国際化しないといけない」というように、自動詞的に使われる国際化は「世界に開く」という意味で、意味がかなり違ってきました。

# ストリングは、弦楽器を勉強、愛好する すべての方のための弦楽専門誌です。



## 2010年3月号

- 第4回仙台国際音楽コンクールヴァイオリン部門オーディション
- ロン・ティボー国際音楽コンクールの覇者のシン・ヒョンス
- ハルダンゲル・バイオリンの日本人奏者の先駆者 山瀬理桜
- 革命的音楽論 暗譜の本当の意味 玉木宏樹
- 若手ヴァイオリニストのホープ 岡本誠司
- 音楽でプロをめざすあなたのためのカウンセリング 箕口一美
- パソナグループ『夢オーケストラ』第2回チャリティコンサート
- ストリング・インタビュー 神谷未穂



## 2010年2月号

- 弦楽器奏者にとって『仕分け』とは何だったのか？ 渡辺 和
- 『音楽上の問題の答は、ふだんの生活の中にもいくらかでもある』  
イヴリー・ギトリス
- 革命的音楽論 アナリーゼが何故重要か 玉木宏樹
- 音楽でプロをめざすあなたのためのカウンセリング 箕口一美
- かなり踏み込んだアナリーゼが私の演奏を生み出します
- 大らかな子どもの感性を育む 子どもの弾きたい気持ちを大切に  
したコンクールを実現 国際ジュニア音楽コンクール 茂木佳子
- ストリング・インタビュー ヴァディム・チジク



## 2010年1月号

- バロック音楽において最も重要なのは『アフエット（情感）』です。
- 革命的音楽論 名曲に存在する旋法（モード）
- バイロイト・祝祭ヴァイオリン・クアルテット 眞峰紀一郎
- メキシコ音楽祭2010 実った果実と共に 黒沼ユリ子
- 東京交響楽団・新楽団長の大野順二氏に抱負をうかがう
- 音楽でプロをめざすあなたのためのカウンセリング 箕口一美
- 第2回ガスパール・カサド国際チェロ・コンクールin八王子
- ストリング・インタビュー イヴリー・ギトリス

☆ジェラール・ブルーレ・特別レッスン、イザイ研究の最先端・レイ・イワズミ他  
ヴァイオリンからコントラバスまでの誌上レッスン等、好評連載多数

弦楽専門誌

# ストリング

定価840円（本体800円）

年間購読料：10,080円（送料サービス）

お問い合わせ、お申し込みは

TEL03-3393-5921 FAX03-3398-4971

又は、ストリング誌付属のお申し込み用紙で。  
あるいは、弊社ホームページで。

（株）レッスンの友社 <http://www.lesson.co.jp>

〒167-0032 東京都杉並区天沼3-2-2 弦楽動楽ビル3F TEL03-3393-5921 FAX03-3398-4971



ご自身の体験に裏打ちされたお話は、とても興味深いものばかりでした

才能教育研究会には、外国の方  
も大勢みえます。夏期学校には、  
毎年外国からも多数の参加があり  
ます。また、先日、オーストラリ  
アのスズキの皆さんが、シドニー  
のオペラハウスで演奏するのを拝  
見してきましたが、オーストラリ  
アでも盛んにスズキが普及してい  
ることに感激しました。そういう

状況を考えると、スズキ・メソ  
ドは、ずいぶん日本の国際化に貢  
献してきたと思います。

一方、グローバル化という言葉  
が出てきたのは、ここ20年です。  
ベルリンの壁が崩れたのが、ちょ  
うど20年前の11月です。それを境  
に、東ヨーロッパ諸国が、あつと  
いう間に自由化しました。チェコ  
では亡命していた指揮者のクーベ  
リックが帰国して、スメタナの「わ  
が祖国」を指揮した、その名演奏  
が残っています。もし、ベルリン  
の壁があつたら、とてもグローバ  
ル化はできなかつたでしょう。

もう一つは、同じ年に、アメリ  
カで知人の家に招かれた時、「中嶋  
先生の論文を拝見しました」と  
彼がパソコンで検索すると、私の  
書いた英語の論文が画面いっぱい  
に出てきたのです。今では当たり  
前のことですが、これには本当に  
びっくりしました。そのおかげで  
時差も関係なくなり、コンピュー

ターの上ではボーダレスになつ  
ています。グローバル化の言葉通  
り、グローバル化しているのだ  
すね。国際化というのはいくら進  
んでも、国と国との水平的な関係  
ですが、グローバル化は、全世界  
が瞬時に一体化する立体的関係で  
す。国境は、実際にはまだ意味を  
持っていますが、それも従来の方  
味でなくなってくるような、立体的  
な地球化の時代が国境を越えて  
到来しています。

ですから、この20年の世界の変  
化は、皆さんの生活環境の変化も  
含めて、実に歴史的な、人類が経  
験したことのないような変化です。  
その中に皆さんが生きているとい  
うこと自体、非常に貴重な体験を  
されているわけです。

### 家庭教育の重要性

では、はたして日本の教育は、  
グローバル化の時代に対応してい

るのか、またどうしたら対応できるのか、という大きな課題を私たちは与えられています。ところが、教育というと「学校に通わせればいい」「保育園や幼稚園に預ければいい」というように考えている方が、一般にはとても多いのです。ここに大きな問題があります。

「教育」という言葉は、孟子の「教えてこれを育つ」から来ていますが、この「育てる」ということが、日本の教育では疎かにされているような気がします。育てる場合に一番大事なのは、就学前教育、すなわち家庭教育だと思えます。それが、まず成り立たないと、教育そのものの根本、一番土台のところから揺らいでいきます。子どもは、学校へ預ける前に、家庭できちんと育てる、きちんとしつけることから始めないといけません。

その次が幼児教育です。その中に家庭教育も含まれますが、幼稚園と保育園は管轄する省庁の違い

もあって、その教育の中身をほとんど検討してきませんでした。安倍内閣の時、教育再生会議の委員としてお手伝いさせていただぎましたが、かなり、その辺をしつかり議論させていただけたと思います。

### 英語教育・情操教育と スズキ・メソッド

その次は初中教育で、ここにも二つの問題がありました。一つは英語教育をどうするかです。耳から聞いて覚える英語教育は、早いうちの方がいいですし、持続させるのが大事です。スズキで学ばれている方は、よくわかりと思いますが、外国語教育と音楽は相関性が高いですね。

スズキ・メソッドは、初め楽譜を読まずに、耳で聞いて覚え、ある程度進んでから楽譜を読みます。英語も初めから文法を気にしていたら、なかなか口をついては出て

きません。まず耳で聞いて覚え、それでコミュニケーションしてみると、ほとんど通じます。10年間英語を習っても使えないような教育ではだめで、ここを根本的に直していかないといけない。結局、2011年度から小学校5、6年生で週1時間、英語をやることにな



子どもたちと一緒に演奏に、毎回真剣に取り組まれています

りましたが、本当は小学校、幼稚園を含めてすべきです。

もう一つは、情操教育です。初中教育の中で、音楽や美術の先生が「受験科目ではないので肩身が狭い」と言うのを聞きます。本当は情操が豊かで、感性がフレッシュな時に、それこそ音楽や美術を重視しないといけないでしょう。日本の教育はそういう意味からも、危機にあると思います。今こそ情操教育をきちんと教育の中に位置づけていかななくてはなりません。

このような状況を経て、2006年12月に改定された新しい教育基本法に見られますように、ようやく公教育の中に、幼児教育や才能教育のような情操教育の重要性が認められ始めました。こういう現実をご理解いただきました。才能教育研究会の持つ意味を改めて認識していただきたいと思えます。スズキ・メソッドは公教育ではなく、まさに皆さんに支えられ

ている民間の教育ですが、それがこれだけ世界に広がっているところ、とても大きな意義がありますね。それは実に誇るべきことではないでしょうか。

どうぞ皆さん、長く続けてください。続けることが大事です。私も自分の研究が忙しかった40歳くらいまでは、しばらくヴァイオリンから遠ざかっていました。でもまた始めると、昔の感覚が戻ってきます。これからはいろいろな事情でおやめになった方にも、もう一度OBとして戻っていただけるように、いろいろな機会を作っていきたくと考えています。そして、今まで楽器に縁がなかったという方は、ぜひスズキの教室を訪ねてみてください。そこにはきっとアットホームな雰囲気の流れているでしょう。一人でも多くの方にこのスズキ・メソッドに親しんでいただけるよう、これからもどうぞよろしくお願いいたします。



全科斉奏

# ★23 教室めぐり 宮城県

仙台支部  
照井勢子クラス  
・青葉区上杉 2-1-14 ダイアバレス上杉 404 号  
tel.022-221-1835



左から三塚、中塚、飯塚のサンツカ先生

でも音楽の芽は、遥か前に生まれていた。1949年、敗戦で引き上げてくる人がまだ多かった頃、北六番丁小学校は器楽演奏で、その名を馳せていた。たまたまそこで同僚だった通称サンツカ先生、飯塚、勸先生、故三塚、實先生、中塚、久先生とは意気投合して音楽教育に力を注ぎ、中塚先生がヴァイオリンを弾けたこともあり、「ヴァイオリン会」を作り、放課後3人で弦楽を加

えた器楽合奏を教え始めた。譜面は手書き、編曲も自前。でも熱意は一級だった。そこに友だちに誘われて入ったのが5年生の照井先生。戦争で焼け出され、転々として落ち着いた先が、この学区だった。サンツカ先生は夏休みのたびに松本に出かけ、鈴木先生の指導を受け、それを実践していく。しまたいには教職を辞し、スズキの指導者の道を選んだ。やっと楽器が手に入ってもケースがなく、木で作ってももうような時代だったが、照井先生は小学校を卒業しても、そして「ヴァイオリン会」がやがて「才能教育研究会仙台支部」になった以後も続けた。やがて高校を卒業すると、支部の事務や中塚先生のレッスンを手伝うことになり、自

然に助手、助教と進んでいく。「教室運営の事務も含め、指導者になるまでの期間の父母とのコミュニケーションは、今とても役に立っています。若い私には何も話しやすかったです。若い私には何で母の本音を聞けました」  
中塚先生のレッスンを長く見学できたことも、いろいろな行事で経験を積めたことも大きかった。「助手の時に夏期学校で、いろいろな先生のレッスンを見学させていただきましたが、教え方はもちろん、初歩の指導、親の指導はとも勉強になりました」と振り返る。最初担当した石巻教室へ行くのは、当時は一日がかり。それでもお魚をいただいて帰る、のんびりした時代だった。

仙台的歴史は、藩主伊達政宗が仙台城を築いた1601年に始まる。100万人を越す都市でありながら、青葉城址、広瀬川と緑濃い街は「村の都」と称されてきた。最近ではレベルの高さで有名な「仙台国際音楽コンクール」を擁し、「楽都」としても知られている。

松本に出かけ、鈴木先生の指導を受け、それを実践していく。しまたいには教職を辞し、スズキの指導者の道を選んだ。やっと楽器が手に入ってもケースがなく、木で作ってももうような時代だったが、照井先生は小学校を卒業しても、そして「ヴァイオリン会」がやがて「才能教育研究会仙台支部」になった以後も続けた。やがて高校を卒業すると、支部の事務や中塚先生のレッスンを手伝うことになり、自

然に助手、助教と進んでいく。「教室運営の事務も含め、指導者になるまでの期間の父母とのコミュニケーションは、今とても役に立っています。若い私には何も話しやすかったです。若い私には何で母の本音を聞けました」  
中塚先生のレッスンを長く見学できたことも、いろいろな行事で経験を積めたことも大きかった。「助手の時に夏期学校で、いろいろな先生のレッスンを見学させていただきましたが、教え方はもちろん、初歩の指導、親の指導はとも勉強になりました」と振り返る。最初担当した石巻教室へ行くのは、当時は一日がかり。それでもお魚をいただいて帰る、のんびりした時代だった。

## 楽器が上手だけではなく、慕われる子に

今回は宮城県仙台市のヴァイオリン教室を紹介する。1955年、中塚久先生が松本の鈴木鎮一先生の元で学んで帰ってくるのと同時に、仙台支部は始まった。それから55年。今回訪ねた照井勢子先生は中塚先生の最初の生徒で、前号の「思い出の写真」にも登場された。そして佐々木勲先生は照井クラスの出身だ。



照井勢子クラス

# Suzuki Method

才能教育 No.171 春 2010

思い出の写真「<sup>いぬ</sup>成年生まれの大演奏会」  
日野原重明先生 講演会「人間のいのちと音楽」



特集 スズキ・メソッド  
0～3歳児コース